

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和3年12月24日現在

今月の重点活動

■水稲 JAぎふ水田農業担い手連絡協議会研究交流会開催

12月9日、長良川国際会議場でJAぎふ水田農業担い手連絡協議会研究交流会が開催された。当日は水田農業の担い手、JAぎふ役職員、農林事務所職員、全農岐阜県本部など186名が参集し、令和3年産稲作の総括と次年度の取り組みについて協議を行った。

農業普及課から令和3年産水稲の作柄と次年度に向けた水田の土づくりについて説明し、業務用米を取扱う冷凍食品会社から冷凍米飯の求める品質や品種について講演があった。本交流会では、担い手が翌年の営農を考える良い機会となった。

今後、農業普及課では、水稲栽培こよみの作成や令和3年産水稲展示ほの調査結果報告を通じ、次年度営農計画策定に向けた支援をしていく。



【研究交流会の様子】

(地域支援第三係・松本政行)

■いちご ぎふ農協岐阜市いちご部会にぎふ清流GAP評価証書交付

12月21日、都ホテル岐阜長良川で、ぎふ清流GAP推進フォーラムが開催された。このフォーラムの中で、ぎふ清流GAP農場評価証書交付式が行われ、岐阜市いちご部会が古田知事より評価証書の交付を受けた。本部会では令和2年度から県GAP制度の確認を受けていたが、制度終了を受け、ぎふ清流GAP評価制度への移行となった。今回は49名中2名の農場評価を受けたが、今後は部会内での評価農場数を増やしていく計画である。

農業普及課では今後もGAPの取組推進に向け支援を行っていく。

(園芸産地支援第二係・若原浩司)



【会場内PRブース風景】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック研修会開催

12月9日、JAぎふ曾我屋選果場でGLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロックの全体会及び研修会が開催された。

全体会では、次年度役員を選出、新規会員の発掘、広報の編集などについて検討を行った。

研修会では、冬の寄せ植え作りについて学習し、会員が講師となり作り方や花きの管理特性を学習した。

新型コロナの影響で組織的な活動が縮小している中、会員の近況などの情報交換を行う貴重な機会となった。今後も自主的なアドバイザーの活動を支援していく。



【寄せ植え研修風景】

(園芸産地支援第一係・横田京子)

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■大豆 収穫作業がすすむ

管内では、農業法人や大規模農家が麦作跡の水田を利用し、豆腐への加工性に優れた大豆「フクユタカ」を約130ha作付し、11月25日から12月末にかけて収穫作業が行われた。農業普及課では、大豆栽培指針の作成やハスモンヨトウの防除指導等を通して、大豆の単収向上を進めてきた。

今年は播種時期に当たる7月中下旬に好天が続いたため、発芽が良好となり、その後10月～11月も多日照で推移したため大豆の肥大もまずまずで、豊作が見込まれている。

今後農業普及課では大豆の出荷量や検査実績を確認すると共に次年度の栽培体系について検討し、地場産大豆の安定生産を図っていく。



【大豆の収穫風景】

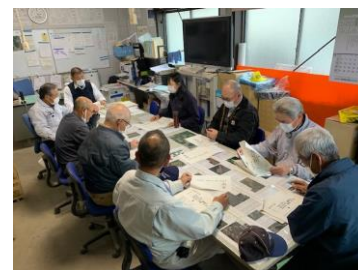
(地域支援第三係・松本政行)

■GAP 農業法人で社員研修を実施

山県市の(農)おおがは、GAPの取り組みを進めるため、ぎふ清流GAPについての社内研修を実施した。

農業普及課からGAPの取り組みについて説明を受けた後、GAP責任者や各作業責任者が該当する評価項目について、各自確認しながらGAPの取り組みについて学んだ。

農業普及課では、ぎふ清流GAPの評価を通じて、(農)おおがの経営を支援していく。



【社員へのGAP研修】

(地域支援第三係・河合浩子)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 「こなゆきひめ」を使った米粉パンの試食会開催

岐阜県が育成した米粉専用品種「こなゆきひめ」が、羽島市内で今年度試験栽培された。この品種の米粉を使ったパンの試食会が12月15日に開催され、関係者が20人程度集まった。

当日は、JAぎふおんさい広場鷺山店にあるきらきら工房で試作された「こなゆきひめ」と「ハツシモ岐阜SL」の米粉をそれぞれ使って作られた食パンの食べ比べが行われた。「こなゆきひめ」の特長が活かされた食パンに、出席者からは、「もちもち感が強く、甘みも感じられる」「見た目が白くきれいであり、きめが細かい」など、高評価を得ていた。



【「こなゆきひめ」の粉を使ったパン】

令和4年も引き続き羽島市内で「こなゆきひめ」の栽培が予定されており、農業普及課では、収量向上や高品質を目指した栽培支援を行っていく予定である。

(地域支援第二係・木村裕子)

■祝だいこん 出荷目揃会を開催

12月14日、JAぎふ則武支店において、祝だいこんの出荷目揃会が開催された。今年は、10月の高温乾燥の影響で、発芽～初期生育が心配されたが、12月初めには平年以上の生育となっている。農業普及課からは、気象経過と生育調査結果や品質の傾向等の情報提供を行った。また、生育情報・出荷予測等を有利販売につなげるため、市場関係者との情報共有を行っている。今年産は12月16日より収穫が始まり、12月27日までに昨年並みの約60万本が関西市場に出荷される。



【規格を目揃する生産者】

(園芸産地支援第一係・横田京子)

■カキ 果宝柿選果が行われる

㊦柿振興会では、露地柿の出荷が終了した12月3日から、JAぎふ糸貫選果場において、袋柿(富有)の出荷が開始され、それにあわせて果宝柿の選果も行われた。

今年度は、長梅雨や高温など厳しい気象条件であったが果実は大玉傾向であり、糖度も高いものが多くみられた。高糖度(18度以上)で大玉(4L・5L)の条件を満たした袋柿から、出荷期間中に5L46玉、4L70玉が果宝柿として選果された。農業普及課においては選果支援を行った。



【選果された果宝柿】

(園芸産地支援第二係・杉浦真由、小枝俊仁)

■花き 岐阜市長とプランター植え替え

11月25日、岐阜市園芸振興会鉢物研究会では、岐阜市長の出席を得て、花苗の植え替え活動を行った。昨年までは市役所旧庁舎前の花壇に植栽を行っていたが、新庁舎移転に伴って玄関前にプランターが設置され、2か月に1度、会員が季節の花を植え替え、市役所に来庁した市民の心を和ませている。

今回は、会員9名が参加し、市長と一緒に、会員が生産したパンジーとハボタンの植え替え作業を行った。

農業普及課では、今後も鉢物研究会役員会への情報提供等を通して活動を支援していく。



【岐阜市長と鉢物研究会員】

(園芸産地支援第一係・白木愛)

地域資源を活かした農村づくり

■栗 剪定研修会の開催

12月15日に、山県市の栗生産組合を対象とした剪定研修会が開催された。中山間農業研究所中津川支所の研究員、農業革新支援専門員から令和3年産の栗の生育状況に関する情報提供の他、剪定方法の実技指導が行われた。また農業普及課からは、種苗法の改正について情報提供を行った。山県市の栗は、今年オープンしたJAぎふ山県バスケットでの販売が好調で、収量確保、品質の安定が求められている。

農業普及課では、生産安定、出荷量増加をめざし、引続き情報提供や指導を行う。



【剪定指導の様子】

(地域支援第三係・河合浩子)